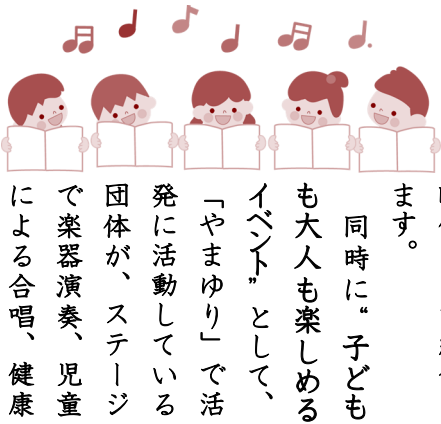


# やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第23号 発行日：平成29年10月1日  
発行元 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター  
〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5  
TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467  
発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

## 川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり



映像などで紹介します。  
同時に“子どもも大人も楽しめるイベント”として、「やまゆり」で活発に活動している団体が、ステージで楽器演奏、児童による合唱、健康

「やまゆり」は、麻生区の市民活動を支援する拠点として、区民が自由に集まり、交流するための施設です。開館10年目を迎えた同館は60名ほどのボランティアメンバーにより日々運営されています。今年も運営スタッフの募集（締切10月13日）を行っています。  
「やまゆりDAY」では、その活動の一端をパネル、



## やまゆりDAYを開催！

麻生市民交流館やまゆりは、本年、開館10周年を迎えた。11月3日（祝・文化の日）新百合ヶ丘エルミロード協賛のもと「やまゆりDAY」を開催します。

### Topics



2017年7月13日、麻生市民交流館やまゆりで執り行われた「10周年記念報告会」にて福田紀彦川崎市長から認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターの活動に対して感謝状が贈呈されました。

体操などを披露します。また、おもちゃ作り、絵手紙づくり、野菜布染めなどのクラフト体験ができるコーナーも開催予定です。  
秋の休日、市民活動のさらなる支援を目指して、麻生区役所後援のもとに行われる「やまゆりDAY」を大いに楽しんでください。  
理事長 植木昌昭

### やまゆりDAY

日時：2017年11月3日（祝日）

10時30分～15時

会場：新百合ヶ丘エルミロード

1階 吹き抜け広場



### 目次

A ありがとう

新たな試みにも挑んだ21年P2

S サプライズ

記憶に残る

エ「な風車のある風景

P2

A アミューズメント

楽しさいっぱいの

キャンパスを訪ねよう！

P3

O お役立ち情報

今年も「平和・人権学習

講座」はおもしろそう

P3

● やまゆりからのお知らせ

天井は青空、

床は緑の芝生、

壁はみんなの笑顔！

新ゆりアートパークス

P4

# ありがとう



## 新たな試みにも挑んだ21年



視覚障害者のための朗読ボランティアグループ「さんざし」の代表を今年春まで21年

にわたって務めたのは武村桂子さん（写真）だ。80人近い会員の先頭に立って来た武村さんは、自らも視覚障害の身。そのハンディを感じさせず、エネルギーッシュに会を発展させてきた。

「皆さんがいろんなアイデアを出してくださって、ここまで育ったんです。私は、自分のやりたい、してほしいことを言ってきただけなんですよ」

控えめに語る武村さんだが、そこに大きな意味があった。録音図書や音声月刊誌の製作などを行う「さんざし」。こうした活動で大事なものは、利用者が何を望んでいるかを正しく理解することだ。送り手、受け手双方の思いを知る武村さんの「やりたいこと」「してほしいこと」は、そのまま、利用者にもどう伝えるかを指し示す道しるべになってきたのである。

その例のひとつに映画の副音声づくりがある。視覚障害のある人も映画を楽しめるよう、画面を逐

一説明していく音声ガイドだ。「最初は、見えない人が映画を見られるんですかと言われました。私は歌舞伎が好きだったので、歌舞伎のイヤホンガイドをヒントにして、できるんじゃないかと思ったんです」

このアイデアを「しんゆり映画祭」実行委員会に伝えると、「面白い。やりましょう」と採用の運びとなり、1997年、同映画祭で「さんざし」による副音声づくりが実現した。日本初といわれる試みは9年にわたって続いた。

代表を交代しても熱い思いは変わらない。「これからは新しい視点での取り組みも」。ハンディを超えて利用者に寄り添う奮闘が続く。

### DATA 「さんざし」

1991年設立。麻生区、多摩区など川崎市北部を中心に活動。録音図書（年間40タイトル）、音声月刊誌「多摩・麻生ジャーナル」（毎月）の製作、出前朗読、音訳講座など幅広い活動を行っている。平成23年度に川崎市社会功労賞を受賞。現代表は山本栄子さん。武村さんは設立半年後に入会。96年、49歳で代表となり、今年3月まで務めた。

取材・文 区民記者 佐藤次郎

# サプライズ

## 記憶に残る エコな風車のある風景

風景ほど、心に残り、こころを育んでくれるものはない。この麻生区の地形の起伏と小高い森の風景は、子どもの頃の記憶を思い起こしてくる。年を取るごとに、その記憶の風景を求めてぶらぶらすることが多くなった。

柿生大橋を歩いていると、茶臼山の麓の小高いところに、大きな風車2基が風を切って回っているのが見える。興味津々、この家を訪ねてみたくなった。

その家は堤一樹（つつみ かずき）さんのお宅であった。堤さんは、1997年に神奈川県で、はじめて、東京電力と太陽光・風力発電の売電契約を結んだ、エコのさががけの人。歯科医で、経営者でもある。

エコに興味をもたれたきっかけを尋ねた。「少しでも、環境にやさしい生活をしたい、独立したライフラインの家になりたい、と思つてのことです。…」と、堤さんはエコの大切さを語る。現在、太陽光・風力発電で、家の30%の電力をまかなっている。

住宅地の風力発電はプロペラ音が騒音トラブルになると耳にする。「当初のイギリス製風力発電は近所から苦情があり、強風時はやむなく、停止しました」と、堤さん。風力発電も、そう簡単ではない。

「10年前に、日本製に取り換えました。プロペラ音は静かで、木の葉が動く程度の弱い風でも発電します。強風時には、ブレーキやセーブ機能も付いています」。いまはトラブルもないという。

風力発電のメリットは、夜間や曇りでも、風があれば発電をすること。どれくらいかの発電量があるのだろうか。

「設置コストがかかる割には発電量が小さいです。キッチン家電、照明、パソコンや電話の電源などに使っています。もっと、微風でも発電するタイプをつけた」と話す。堤さんのエコな家づくりはこれからも続く。

ここ上麻生で、思いがけなく見かけた風車。記憶に残る、エコな風景のひとつである。



風車は直径1.8m。建物の構造も太陽エネルギー利用の家。夏は涼しく、冬は暖かい

取材・文 区民記者 石崎純也

DATA

でんえんちようひがくえんだいがく

田園調布学園大学

ちいきこうりゅう

地域交流センター

所在地：麻生区東百合丘3-4-1

電話：044-966-2780（直通）

受付時間：平日9～17時

アミューズメント



楽しさいっぱいのキャンパスを訪ねよう！

→さあ、はじまるぞ！期待でいっぱい  
(ボランティア専門講座にて)



開催している。地域の団体との交流の場も用意されている。ボランティア活動に興味がある方は参加してみよう。

田園調布学園大学は、2009年4月にボランティアの紹介、相談や外部団体との連携などを行う地域交流センターを開設し、同大学が専門とする福祉・保育・教育・心理等の公開講座を開催。少し勉強してみたいなと思っ

●公開講座および  
ボランティア専門講座

各々年1回8月頃開催、要予約、無料

●子どもがつくる町  
「ミニたまゆり」

「子ども会議」  
2017年10月～2018年1月、  
月1回開催

「本番」2018年2月中旬、2日間  
対象：5～15歳、各々要予約、  
無料

●図書館の開放

中学生以上  
(小学生以下は保護者同伴)  
月～金曜 9～18時、  
土曜 9時～12時30分  
要利用者カード作成  
(実費1000円負担)

取材・文 区民記者 中島久幸



↑私たちがつくりました、  
‘おいしいカレーはいかが’  
(ミニたまゆりにて)

ほかに、子ども向けイベントの「ミニたまゆり」がある。「子ども会議」での検討を経て作られた仮想の町には、市役所、銀行などの公共施設、工場や飲食店、娯楽施設などのお店(仕事)が用意される。子どもたちはここで働き、支払われた給料で、買い物、食事、ゲームを楽しみながら社会の仕組みを学ぶ。

お役立ち情報

今年も「平和・人権学習講座」はおもしろそう

今年も麻生市民館で、平和・人権学習講座が「平和って何だろう」を今、考える憲法を学んでみませんか」をテーマに開催される。

平和・人権学習講座、そのうえ憲法と聞くと、それだけで肩が凝りそうだが、市民館の担当者公募による企画委員の方々は、「解りやすくするために、受講者各自が平和、人権等を考えるきっかけとなる講座」を目標に、熱意と笑顔あふれる打合せを行っていた。

講座は、「『原爆語り部』としての活動は、私に与えられた天命」と語る、森政忠雄さんの凄惨な被爆体験と平和への思いを聴くことから始まる。また、川崎市平和館を学芸員の説明を聴きながら見学し、戦争の一端を体感することも予定されている。

憲法については、分かり易いUCCや専門家の解説で学ぶほか、女性問題を中心に法の下での平等や、子どもの権利条例、女性の貧困問題など個別問題の講義(講義後は毎回意見交換を行う)もあり、最終日には出席者同士の意見交換も企画されているという。

得難い機会でもあるので、ぜひ参加されてはいかがでしょうか。

DATA 「平和・人権学習講座」

開催日時：2017年11月28日(火)、12月4日(月)、12月13日(水)、  
2018年1月9日(火)、1月16日(火)、1月23日(火)、  
1月30日(火)、2月6日(火)、2月13日(火)、2月21日(水)  
時間はいずれも10時～12時

会場 麻生市民館会議室  
川崎市平和館見学(無料)は  
現地集合、現地解散の予定

料金 無料

問い合わせ 麻生市民館(麻生区役所生涯学習支援課)  
(麻生区万福寺1-5-2) Tel. 044-951-1300

詳細は「麻生市民館だより」10月号に掲載予定である。



最近の市民館での講座風景。  
後ろ姿にも熱意が...

取材・文 区民記者 仲原照男

# 天井は青空、床は緑の芝生 壁はみんなの笑顔！ そんな夢をみませんか？

●小田急線新百合ヶ丘駅南口から徒歩約7分、昭和音大校舎南側にある「新ゆりアートパークス」。

まるでゴルフ場のグリーンのように美しく整備された芝生広場を維持管理してきたのが「新ゆりアートパークス管理運営協議会」。

会長の森一郎さんは、2007年春から、区民が誇れる公園にしたいと芝生の手入れをはじめ、同年8月に会を設立。2012年には緑の愛護に顕著な功績があったとして「みどりの愛護」国土交通大臣賞を受賞した。

●2017年、活動10年目を迎えたが、ボランティアの高齢化などから現状を維持することが危ぶまれていた。

そこで、近隣の麻生市民交流館やまゆりを管理運営する「あさお市民活動サポートセンター」は、地域情報紙3

紙の協力をえて8月10日にボランティア説明会を実施。

その結果、新旧あわせてメンバーは25名となり、名称を「新ゆりアートパークスきずな」として、9月8日（土）から新たに活動をスタートさせた。

子どもたちが裸足でかけまわり、AirGreenはイベントを定期開催、芝生のうえでヨガをする団体が生まれるなど、青空の天井をもった「やまゆり」のバーチャル分館のように、日本一の芝生公園に区民が集う。

そんな夢を実現できる環境が、多くのボランティアの力で生まれつつある。

毎週土曜日9時30分から午前中に一緒に活動してくれる仲間を募集。汚れてもいい格好で、直接現地へ。更に多くの仲間が増えることを期待したい。



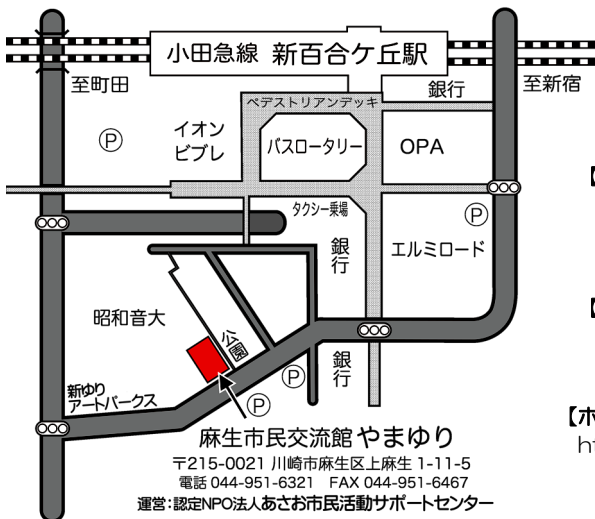
除草作業の前には、備品の扱い方についてレクチャー



芝生のなかに生えてきた雑草は、一株一株ドライバーなどで根こそぎ取り除いていく



「新ゆりアートパークス管理運営協議会10周年と新旧交流会」をやまゆりで実施。北沢区長も参加され、10年間の努力に対し森代表に感謝状が渡された。新たなボランティア19名を加え「新ゆりアートパークス・きずな」としてスタートをきった



【開館日】  
月曜～金曜 9時30分～17時  
※平日の夜間、土曜・日曜、祝日も予約すれば利用可。  
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】  
小田急線「新百合ヶ丘駅」  
南口から徒歩4分

【ホームページ】  
<http://web-asao.jp/yamayuri/>

## あさお区民記者

区民による、区民のための  
情報発信を目的に活動。

区民記者は「やまゆりニュース」掲載記事の企画構成・取材撮影を担当しています。  
過去の取材記事はあさお区民記者のホームページに掲載しています。



●区民記者&サポートメンバー募集中！  
詳しくは [info@asao-ku.net](mailto:info@asao-ku.net) に  
お問い合わせください